

案件(2)意見交換 議題

生涯学習活動に参加する時間がない方が多いという問題にどう対応すればよいとお考えになりますか。

1、令和5年度市民意識調査における結果

問 16 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。

回答

「参加する時間がない」	28.0%
「参加したい講座等がない」	16.9%
「学習機会に関する情報がない」	15.2%

【参考】令和5年度市民意識調査 調査設計等

- (1) 調査地域 厚木市全域
- (2) 調査対象 厚木市在住の18歳以上の男女(外国籍市民含む)
- (3) 調査対象者数 調査票A:3,000人
- (4) 抽出方法 無作為抽出法(年代及び居住地区は全体の構成比に基づく)
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収またはインターネット回答
- (6) 調査期間 令和5年7月1日～7月20日
- (7) 有効回収数 調査票A:1,446人

2、市で行っている施策内容の例

- (1) 誰もが参加しやすい学習環境づくり

多様な講座を土日や子どもの長期休暇の期間等を開講するなど、時間帯・曜日・開催場所等を工夫しています。

例:「No.17 輝き厚木塾開設事業」、「No.23 公民館活動事業」、
「No.53 七沢自然ふれあいセンター維持管理事業」

- (2) あらゆる世代への効果的な情報発信

広報誌や、講座やイベントの情報発信を行うシステムである厚木市講座予約システム、LINE や X(旧 Twitter)などのソーシャルメディアを運用し、情報発信を行っています。特に LINE では、利用者の性別、生年月日、居住地域、属性等を

限定して情報を発信しています。市ホームページのイベントカレンダーでは、子育て、健康・保健などの分野別や市内の地域別でイベントの検索が可能です。YouTube(あつぎ文化魅力発信チャンネル)でも文化芸術に関する事業を公開しています。

例:「No.39 あつぎ文化芸術・生涯学習発信チャンネル」、
「No.52 生涯学習推進事業」

(3) オンライン講座の推進

自宅や外出先などの好きな場所でスマートフォンやタブレット端末を活用し、学習できるオンライン講座やオンライン配信を多くの事業で行っています。特にコロナ禍では多くのオンライン講座等を行いました。昨年度からは対面講座が開催可能となり、対面講座に戻っている事業もあります。

例:「No.38 市民文化祭開催事業」、「No.65 あつぎ協働大学開設事業」、
「No.70 ロボット普及促進事業」、「No.88 あつぎ起業スクール開催事業」、



厚木市民意識調査報告書

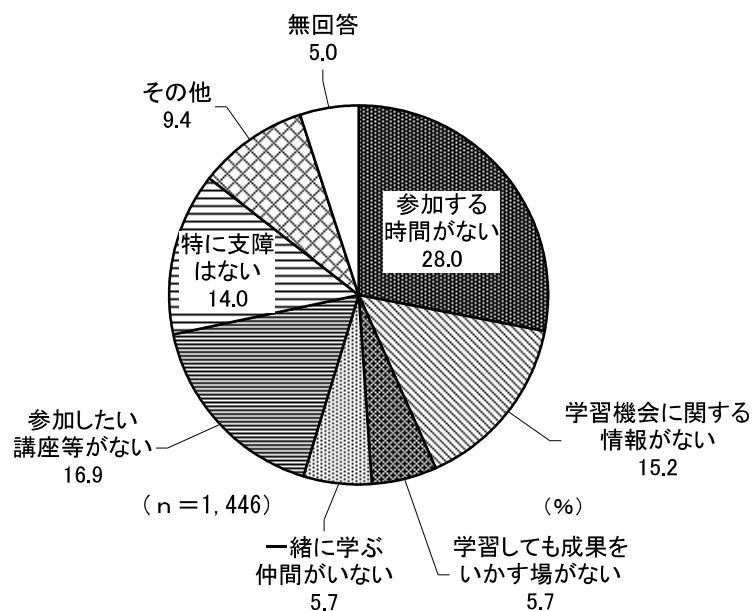
令和6年1月

厚木市

(3) 生涯学習活動に参加する上で支障になること (A: 問16)

問. 講座・教育などの学習活動へ参加を検討する場合、どのような理由が妨げとなりますか。
(1つだけ選んでください)

図8-3-1 生涯学習活動に参加する上で支障になること



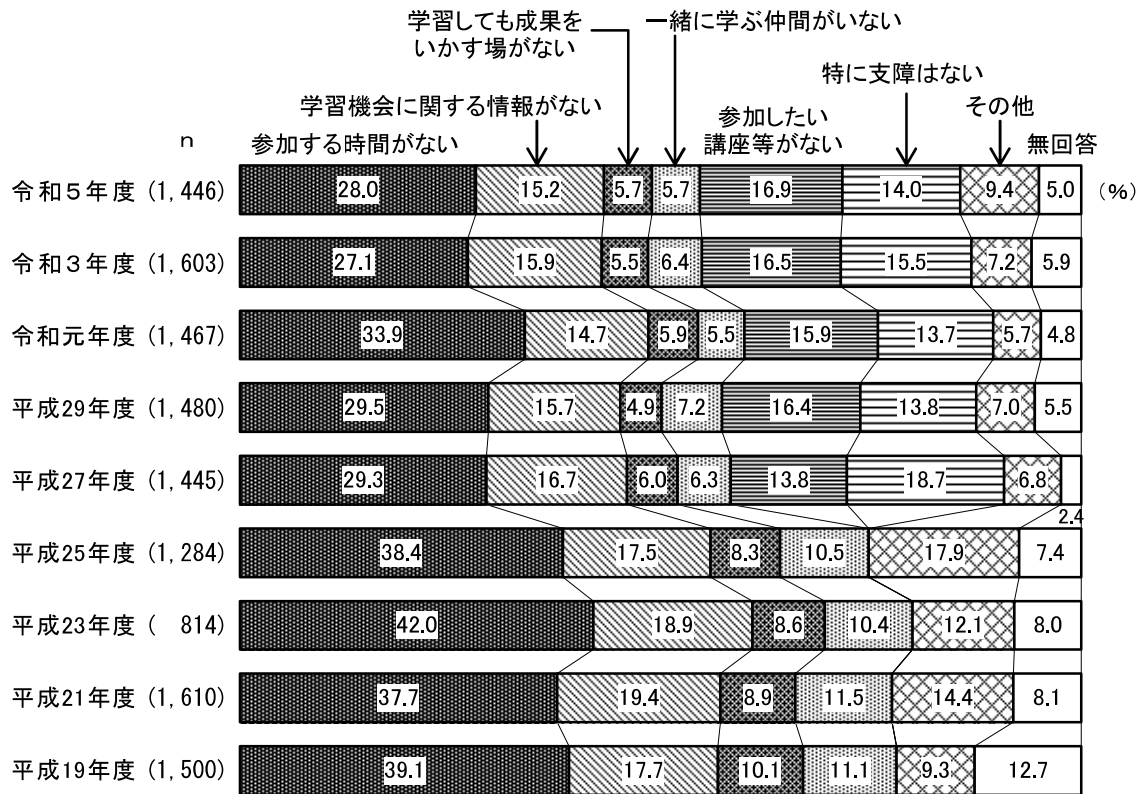
【全体】

生涯学習活動に参加する上で支障になることについて聞いたところ、「参加する時間がない」(28.0%)が3割近くで最も高く、次いで「参加したい講座等がない」(16.9%)、「学習機会に関する情報がない」(15.2%)となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、令和3年度調査と比べて大きな差異は見られない。
 なお、平成25年度以前の調査は、選択肢が異なっているため、参考掲載とする。

図8-3-2 生涯学習活動に参加する上で支障になること—経年変化



(注) 平成27年度調査以降では、「参加したい講座等がない」と「特に支障はない」の選択肢を追加している。

【属性別】

性別で見ると、女性では「参加する時間がない」(30.1%)が男性(26.2%)より3.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「参加する時間がない」50～59歳(44.5%)で4割半ばと高くなっている。「学習機会に関する情報がない」は30～39歳(21.7%)で2割を超えて高くなっている。「参加したい講座等がない」は60～69歳(21.0%)で2割を超えて高くなっている。

図8-3-3 生涯学習活動に参加する上で支障になること—性別、年齢別

